

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800283		
法人名	株式会社ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂グループホームたるみ東		
所在地	兵庫県神戸市垂水区美山台二丁目8番2号		
自己評価作成日	平成30年9月25日	評価結果市町村受理日	平成30年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成30年10月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員一人ひとりが、ご入居者様一人ひとりと向き合い、ご入居者様に対し自立した生活が出来る様サポートさせて頂いているという気持ちで日々勤務している。
 ご入居者様やご家族様のニーズ、希望や想いを丁寧に受け止め、職員それぞれが考え話し合い、実現に向けて行動をする自立した職員が多くなる施設でもある。
 また、南西に淡路島や明石海峡大橋を望み、北には自然豊かな池があり、近隣には公園や幼稚園、小・中学校もあるという住宅街でありながら、様々な表情を見せる地区に建っている。そんな立地のつよみを活かした運営を心がけている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市街地が一望できる高台に位置し、明石海峡大橋を遠くに望む豊かな自然に囲まれた住宅街にある。明るい光に満ちたリビングでは利用者が思い思いの過ごし方で集い、癒しの空間となっている。法人の理念や事業所のキャッチコピーと共に、今年の取り組みとしての「テーマ」を『コミュニケーションをとり、情報共有し職員間の連携を高める』とし、3つの詳細な「実行プラン」を掲げて、日々の支援に反映させている。運営推進会議では救急医療情報(もしもの時の安心シート)が法人全体での取り組みである事等が紹介されたり、延命治療の可否についての話し合い等、活発な意見交換の場となっている。好評である家族参加の日帰り旅行も、昨年に引き続き開催され、今後もますます利用者の笑顔があふれる事業所である事を期待している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者 第	三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まんてん堂の理念とは別に事業所独自の理念(キャッチコピー)を設けている。そのキャッチコピーを全体MTGの場で改善し「笑顔・安心・たるみ東」とし目のつきやすい場所に掲示する事で日頃からの意識付けを促している。また今期のテーマも全員で決め実践している。	法人の理念をパンフレットに掲載している。また職員全員が理念を印刷した名札をケースに入れ携帯している。キャッチコピーを掲げ、それに沿って毎日職員が利用者と「笑顔」でお喋りする時間を作っている。また、「安心」への意識の高まりから、ヒヤリハットを多く出し事故防止に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加盟しており、回覧板を通じて夏祭り等の行事の案内発信をしている。当日参加頂いた方とご入居者様、職員との交流も出来た。近隣のヤクルト様の行事にもご入居者様と一緒に参加している。	自治会に加入していて回覧板によって、地域の小学校の行事等を知る事ができ、事業所の行事の発信もしている。事業所で開催する夏まつりには地域の子どもの参加はあるが、トライやるウィーク等地域の小、中学校との交流は出来ない。運営推進会議には自治会長と、ブロック長との参加を得ている。	日頃から散歩などにより、地域の人や子どもたちと触れ合う機会を増やされてはどうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	垂水区や神戸市の主催している地域連携(他職種連携)の研修会等に積極的に参加し情報共有を行っている。また運営推進会議の場で認知症について話す機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している運営推進会議の場で、サービス内容を報告し、話し合いを行っている。外出先やケアについての希望もお伺いした上で現場に反映している。(淡路島外出や口腔ケア研修開催等)	8月の運営推進会議は、夏祭り行事と同時開催した為、多くの家族の参加があった。延命治療の是非に関しての話し合いをし、確認が出来た事を報告した。行事には家族の協力があり、今月は昨年好評だった淡路島への日帰り旅行の予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政主催の研修に積極的に参加し情報交換をしたり、医療介護サポートセンターとも定期的に連絡し関係を築いている。また本社品質向上課も窓口となり行政と事業所の橋渡しをしている。	法人本部を軸にして、市と連携している。包括から地域ケア会議の案内があり、区内の事業所が持ち回りの交代で参加しながら情報共有している。地域の事業所連絡会は、半年ごとの管理者部会と、3か月ごとのリーダー部会があり、双方に参加して意見交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会を発足させ、定期的に現状確認をしている。駐車場ゲートについては常時オープンにしている。玄関等の出入口については、ご入居者様の希望があれば職員と一緒に出入り出来る様取り組んでいる。	「身体的拘束適正化検討委員会」を中心に、全職員に啓発活動研修を実施し、身体拘束廃止の対応に取り組んでいる。ユニット入り口や玄関は電子ロック施錠しているが、利用者が外出希望時は付き添って出掛けている。センサーマットの使用はしていない。	一日の内、職員の手が足りている時間だけでも、玄関等の開錠を検討していただきたい。

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修部会による年間2時間の研修を行っている。事例集を活用しながら、虐待防止に向けた共通の認識を持つ事に努めている。	声掛けや対応が気になる職員には、管理者が注意を促す事によって利用者への声掛けが改善している。全職員を対象に虐待防止研修を年間2回実施する中でアンガーマネジメント(6秒ルール)等を学んでいる。排泄の声掛け時はプライバシーに配慮し、小声で声掛けしている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修部会による研修を毎年実施している。また、職員がいつでも見られる様に休憩室に権利擁護に関する資料をおいている。	成年後見制度と日常生活自立支援事業を利用している利用者が、それぞれ数名おりほとんどの職員が周知している。入職後も地域包括に依頼し研修を行い、家族にも声を掛ける予定である。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を十分につけ、契約時には契約書を読み合わせている。その際、疑問点や不明な点は都度解消できるようにしている。	契約説明時の質問が多いのは、外出や面会時間の制限の有無、看取りについて等であるが、その都度丁寧に説明している。「重度化した場合の対応に係る指針」で、事業所が出来る事と出来ない事を説明し、納得を得て同意書を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場以外にも、ご家族様来訪時やケアプラン作成時にご意見、ご要望をお伺いし、運営に反映している。	口腔ケアに熱心だった利用者が無関心になり、気になる家族が職員に伝えた事から、職員の口腔ケアへの意識が高まった。家族の気付きで利用者への口腔ケアの方法を知った。また、口腔ケア研修も開催した。ドライブや散歩、日帰りバス旅行等外出の希望があり実践している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員面談の時間を設けて困っている事や悩んでいる事等を聞いている。また、全体MTGで意見交換できる様取り組んでいる。	カンファレンスノートや申し送りノートで職員間で情報共有しているが、継続に注意が必要な項目に付いてはメモが書かれた付箋を、別のノートに添付することが提案され実施している。申し送りノートは発信先ごとに文字を色分けし分かりやすい工夫をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度、目標設定、職員面談を通じ意欲向上が出来る様務めている。職員からの提案にはすぐに対応し実現に向けて職員と共に環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の調整を行いながら、外部研修への参加を行っている。また施設内においては研修部会主導での研修を積極的に開催している。職員からあがった意見をもとに研修テーマを決めたりしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ユニットリーダーは3ヶ月に1度開催されている垂水区グループホームリーダー会に参加している。管理者も半年に1回開催されている垂水区グループホーム連絡会に参加し情報交換、情報共有に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談の中で、困っている事、不安な事、要望等を聞き、ご本人様にとって安心出来る関係を作っている。また面談にお伺いした職員が入居当日に出勤する様に配慮している。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や入居前面談の中で、困っている事、不安な事、要望等をお伺いしている。また入居後も来訪時や電話でケアに対する要望、疑問に思っている事を伺い、関係作りに努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様とのコミュニケーションの中で不安、要望を伺った中で必要としている支援を行っている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様の暮らしの中で、出来ないところをお手伝いさせて頂いているという気持ちで、ケアをさせて頂いている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の様子をご家族様来訪時や電話でお話している。生活歴を伺いながらご家族様と一緒にご本人様を支えていく関係を築いている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、近くに住んでいたご入居者様へは周辺への散歩に出掛けている。行事等ご家族様も一緒に参加して頂けるように連絡している。	家族は各行事に積極的に参加し、孫ひ孫の面会もある。職員は随時電話による家族との情報交換を行っている。隣接する健康飲料販売店とは、試飲や健康増進法を聴く等の交流をしているが、地域住民との交流の場はない。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事やレクリエーション等、入居者様同士が楽しめたり役割を持てる環境を提供している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かあればご連絡いただけることで必要に応じて相談や支援に努めることをお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中の会話やご本人様のご様子からご本人の希望、意向を把握している。	コミュニケーションが取りにくく、日常生活上の把握が困難な利用者が数名ある。家族からの聞き取りを参考にしたり、日々の様子や表情から読み取ったり、利用者の選択肢で首を振る等により意思の確認をしている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報や入居後情報で暮らしの把握が出来るように務めている。またご家族様の来訪時にもお声かけし情報収集に努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や業務日誌、申し送りで一人ひとりの心身状態、一日の過している様子を把握している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで課題とケアについて話し合いを行っている。日々の意見やご本人様、ご家族様からの意向等カンファレンスノートを活用し職員がアイデアを記入し反映している。	利用者の介護計画に沿ったサービス3項目の実施について、毎日モニタリングしている。計画作成担当者はモニタリングに基づいて、家族が来訪時に聞き取りした要望と共に、担当者会議を開催し新しい介護計画書を策定している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、支援経過記録、業務日誌に記録し情報を共有し、プラン等に活かしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り外出したい時には外出したり、行事以外でも1・2階の行き来をして頂いている。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問医、訪問看護、歯科、訪問治療(マッサージ)の往診、ヤクルト、パン屋の販売が来られ地域との関わりをもっている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望に沿って、往診に来て頂いている。(入居前からの主治医を継続しておられる方もいらっしゃる)	かかりつけ医の選択は自由であるが、多くの利用者が事業所の協力医を選択している。利用者との契約による月間1～2回の定期往診と、月4回の訪問看護、歯科往診による密な医療連携が来ている。整形や皮膚科など他科の診察には職員が同行し、結果を電話で家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師には往診時の主治医からの往診内容を報告している。また必要に応じて相談、アドバイスをもらっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された方のご家族や病院のケースワーカーと情報交換、相談を行っている。お見舞いの時にご本人様の様子を伺っている。	最近では、誤嚥性肺炎での入院事例があった。同区内の協力医療機関へ入院する事例が多く、病院との関係性は密である。管理者などが頻りに病棟を訪問して医療関係者と情報交換しながら早期退院を図るとともに、退院前カンファレンスに出席し、退院後の受入れ体制を準備している。退院後の訪問リハビリによって、自立度を回復させる場合もある。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応に係る指針を説明している。またご家族様に日頃からご様子をお伝えしている。急変時のケアについても意向を伺っている。	事業所開設後の3年半の間に看取った経験は少ない。看取り介護を始める際に、事業所内での看取りを希望するかどうかの最終確認をしている。今年度に入り、契約済みの利用者の家族も含めて、緊急時の心肺蘇生など延命治療の希望の有無について文書で確認した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医の指示のもと行っている。また、すぐに閲覧できる場所に「事故発生対応マニュアル」をおいている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を行っている。また避難場所の小学校を把握している。	利用者も一緒になって避難訓練をし、1階の利用者は玄関前の駐車場へ、2階は各居室からベランダへと避難している。災害発生時には初動が大切であると管理者は認識しているが、詳細な手順の取り決めと周知に関しては、更なる検討が必要であると思われる。	防災委員会や危機管理部会で、事業所の環境に沿った詳細な手順を取り決めておく必要があるのではないだろうか。

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の誘導や介助の際、声かけやトーンに配慮している。	毎年、接遇研修を行っている。高齢者や障害者であるという先入観をもって利用者に接しないこと、利用者に配慮した言葉遣いをし、不快感を持ちたり過剰なボディタッチを避けることなどの15項目を、基本的なコミュニケーション技術としている。職員はチェックリストによって、定期的に自己評価している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様のペースに合わせ、自己決定して頂けるように声かけをしている。会話だけではなく身振りや動作にも気をつけている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味や興味のあること、希望を把握し活動に反映している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分で衣服をご自身で選んでいたたり、髪型を決めていただいている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを一緒にしている。希望のメニューがあるときは、そのメニューを献立に取り入れたり、外食支援も行っている。	委託業者から毎日届く食材を、事業所のキッチンで調理して盛り付けている。月に2回の食事レクリエーションでは、利用者も一緒に買い物に出掛け、調理の下ごしらえなどを手伝っている。事業所の菜園で育てたプチトマトが献立に色を添えることもある。献立の内容をボードに書いているが、職員による利用者への説明は必ずしも励行されていない。	献立の内容を利用者に説明すれば、利用者の食欲増進に役立つのではないだろうか。
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	観察を行い、記録している。水分の種類は希望をお伺いしている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	かかりつけの歯科医師より、個々の口腔ケアについてアドバイスをもらい実施している。また毎月、歯科医師からの「口腔ケアに係わる技術的助言及び指導報告書」をもとに「口腔ケア・マネジメント計画書」を作成し実践している。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で情報共有し個々の排泄パターンをもとに、トイレ誘導、声かけを行っている。	布パンツを使用している利用者は数名のみで、他はリハビリパンツであるが、ほぼ全員がトイレで排泄出来ている。オムツを着用するケースは退院後の暫くの間だけである。手引き歩行や階段の昇降などの生活リハビリによって、立位が保てるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取方法の工夫やヨーグルトを食べて頂くなどしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望のタイミングで入浴して頂きゆっくりコミュニケーションをはかっている。また、入浴後のノンアルコールビールを楽しみにされている方もいる。	入浴は午前中、平均して2日か3日に1回であるが、午後の時間帯でも毎日でも希望には柔軟に対応している。浴槽のお湯は、利用者ごとに入れ替えている。広い浴場を好む利用者があり、スーパー銭湯への同行を最近試みて喜ばれた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝・起床時間は設定せずご本人のタイミングで休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとりの服薬状況を把握し常に職員間で情報収集し共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持っていただき達成感を味わっていただくようにしている。朝礼(朝の申し送り)にも参加されている方もいる。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って散歩や買い物等の外出支援を行っている。誕生日には希望の食事を食べに行ったり、好きな場所に行くなどの外出支援もしている。	日常的には近隣の喫茶店や外食を楽しんでいる。車で出掛ける場合は、法人の近隣事業所と車を融通しあっている。近隣に有る開放感溢れる広い公園が人気で、桃の花や桜見物をしたり、芝生公園を散策している。家族も同行するバス旅行が利用者にとって良い思い出となり、毎年の楽しみの一つとなっている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望でお金を持っている方もいる。外出時や訪問パン屋でご自身で購入・支払いをされている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、施設の電話を利用いただいている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた製作物を一緒に作り、飾ったり、今日の日がちが分かる手作りカレンダーを飾る等している。	共同空間と居室の床にタイルカーペットを敷き詰め、安全で静かな環境を実現している。廊下やリビングの壁には、イベントを楽しんでいる利用者の大きなスナップ写真が貼られており、来訪してくる家族は日ごろの利用者の様子を観ることが出来る。リビングには上質なテーブルと椅子が置かれ、利用者は静かな時間を楽しんでいる。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気分に応じて過せるよう、テーブルやイスの配置を工夫している。ご本人様の居室内に椅子を置いてそこに座って過される方もいる。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、好きなものを置いて頂いている。家族様と相談しながら安全に居心地の良い空間づくりをしている。	事業所からは、エアコン、クローゼット、防災カーテンが準備されている。利用者は自分に適したベッド、好みの衣装ケース、仏壇などを持ち込んでいる。趣味のぬいぐるみ人形、家族の写真や誕生祝いの寄せ書き、職員から贈られた父の日の表彰状などを飾り、それぞれが過ごし易い居室となっている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様の居室だけではなくフロアの掃除も安全に配慮しながら一緒に行っている。		